

# 1 平成 28 年度 宮の森中学校 校内研究の構想

## ◆研究主題：

『自己を知り 自己を生かし 自己を拓く生徒を育てる実践研究』

## ◆研究副主題：

～生徒が主体的・協働的に取り組むことのできる道徳授業の改善～

## ①研究主題設定の理由：

平成26年10月に中央教育審議会において、道徳の「特別の教科」（仮称）化が答申され、それを受けて平成27年3月に学校教育施行規則の一部を改正する省令の制定並びに「特別教科 道徳」に関する学習指導要領の一部改正が告示された。施行期日は中学校に関する規定は平成31年4月1日で、移行措置は平成27年4月1日～平成31年4月1日である。

研究副主題「生徒が主体的・協働的に取り組むことのできる道徳授業の改善」は、本校が長く引き継いできた研究主題『自己を知り 自己を生かし 自己を拓く生徒を育てる実践研究』のもと、「特別の教科 道徳」（以下、道徳科という）の施行までの3年間で、現行の道徳授業を改善し、本校の道徳カリキュラムの改訂をねらって設定された。すなわち、道徳授業改善の方向は「道徳科」に関する学習指導要領の一部改正の趣旨に添うものであると共に、「生徒が主体的・協働的に学ぶ」（いわゆるアクティブ・ラーニング）ことのできる道徳カリキュラムの改訂を目指している。

## ②「考える道徳」「議論する道徳へ」学習指導要領の一部改正

### 道徳の時間の課題例

- ・読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導
- ・生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業

### 改正の具体的ポイント

- ・道徳科に検定教科書を導入
- ・内容の改善：いじめ問題への対応の充実 より一層体系的なものへ。
- ・指導方法の工夫：問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れる。
- ・評価：数値評価でなく、生徒の道徳性に係る成長の様子を把握

## 「考え、議論する」道徳科への転換

発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図る。

（中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成27年7月より）

「考え、議論する」道徳科への質的転換については、子供たちに道徳的な実践への安易な決意表明を迫るような指導を避ける余り、道徳の時間を内面的資質の育成に完結させ、その結果、実際の教室における指導が読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏り、「あなたならどのように考え、行動・実践するか」を子供たちに真正面から問うことを避けてきた嫌いがある。このような言わば「読み物道徳」から脱却し、問題解決型の学習や体験的な学習などを通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結び付け、更に習慣化していく指導へと転換することこそ道徳の特別教科化の大きな目的である。

(教育課程企画特別部会 論点整理(案)平成27年8月より)

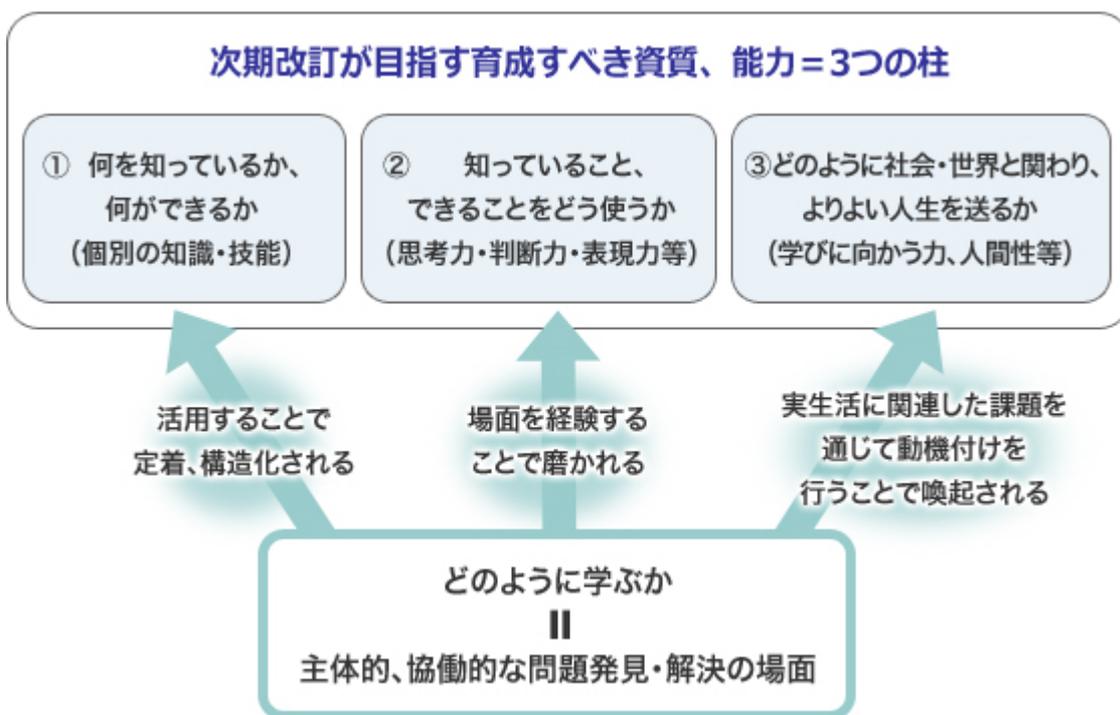
### ③生徒が主体的・協働的に学ぶ(いわゆるアクティブ・ラーニング)

「考え、議論する道徳」への転換は、「何を知っているか」から「何ができるようになるか」の重視へとシフトする学校教育全体の先駆け。

《次期学習指導要領改定へのスケジュール》

平成28年(2016年)度	中央教育審議会として答申
平成29年(2017年)度	学習指導要領告示
平成30年(2018年)度	小学校で移行措置が開始
平成31年(2019年)度	道徳科の施行
平成32年(2020年)度	小学校で全面实施

#### アクティブ・ラーニングと三つの柱の関係



・アクティブ・ラーニングは、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」であり、その学習過程が、次期学習指導要領で育成しようとしている資質・能力(三つの柱)を育むために有効と考えられている。

## ④研究の流れ＜3カ年計画＞

☆平成28年度から平成30年度までの「3カ年継続研究」とする

平成28年度	○道徳授業の改善 副読本や「私たちの道徳」を中心とした現行の教材の中で「問題解決的な学習」いわゆるアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、生徒が「考え、議論する」道徳の授業を目指す。 ○公開授業 第2回研修会 11月25日（金） ○道徳アンケートの実施（内容の一部見直し）
平成29年度	○道徳科カリキュラム構想 道徳アンケート等により「本校生徒に必要な内容」を明らかにし、「道徳的な行為に関する体験的な学習」や「専門家との相互連携」を含む、道徳科カリキュラムを構想する。 ○公開授業 ○道徳アンケートの実施
平成30年度	○道徳科カリキュラム確定 各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連性の見える道徳科カリキュラムを策定する。 ○道徳の評価方法について ○公開授業 ○道徳アンケートの実施

## ② 本年度の実践研究計画について

### 1) 道徳の実践研究について

#### (1) 道徳授業の改善

「副読本」や「私たちの道徳」を中心とした現行の教材の中で「問題解決的な学習」いわゆるアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、生徒が「考え、議論する」道徳の授業を目指す。

①学習指導要領の一部改正を受けて「副読本」と「私たちの道徳」に追加されたページを活かした授業の実践をする。

②ローテーション道徳では全員が「問題解決的な学習」の展開を工夫し、生徒が「考え、議論する」道徳の実践をする。

③道徳全体計画と年間計画の見直し

#### (2) 公開授業 第2回研修会

研究部員が授業を公開する。同じ指導案で、同学年の他の学級でも各担任が実践する。学年研修会を開き、指導案の改善を図る。

#### (3) 道徳アンケートの実施

来年度以降の道徳カリキュラムの構築にむけて、「本校生徒に必要な内容」を明らかにできるように道徳アンケートを見直し、5月と1月に実施する。